

学校だより 浅海



2023
2

松山市立浅海小学校
2023.2.1



自分の中の「軸」

校長 秋山 徹也

「お椿さん」も終わり、暖かい春を心待ちにされているところでしょうか。日頃より本校教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。先日の「校内マラソン大会」におきましても、応援や見守りなど、保護者や地域の皆様方には大変お世話になりました。おかげさまで、記録にも記憶にも残るすばらしい大会とすることができました。ありがとうございました。

さて、進学・進級を目前に控えた今、子どもたちにも保護者の皆様方にも少しお役に立てれば幸いと思い、以下に記します。

最近、「苦しかったときの話をしようか」（森岡毅著）を読んでいます。この森岡さんは、最近よくテレビ番組にもご出演されていて、当時窮地にあったUSJの業績をV字回復させ一躍脚光を浴びた「メーカー」ですので、ご存じの方もいらっしゃるかと思います。このご著書は、元々は娘さんが将来や仕事のことを考える際にと森岡さんが個人的に書きためていた「虎の巻」で、それが編集者の目に留まり、「森岡家の家宝にしておくだけではもったいない」と、出版する運びになったのだそうです。

この中で印象深い言葉を選ぶのは至難の業だったのですが、かつて私自身がそうであったように、「やりたいことがわからないのはなぜか？」に対する森岡さんの「答え」をご紹介します。それは、「問題の本質は外ではなく、君の内側にあるのだ。（中略）自分の中に『軸』がないからだ。（中略）自分の中に基準となる『軸』がなければ、やりたいことが生まれるはずも、選べるはずもない。」です。

子どもたちにその「軸」を見付けさせるために、小学校の教員として支援できることは、本人たちの自覚・無自覚を問わず、一人一人のよさや「強み」を、本人たちに（改めて）認知させる（実践させる）ことではないかと思っています。ご家庭においても同様であろうと思いますので、ぜひ心におとどめくださるとうれしいです。

未来ある子どもたちにとって、今から「軸」を意識する（させる）ことは決して早くないし、大人にとっても一つの示唆となると思い、今回ご紹介しました。

ちなみに、「軸」が見付けられないときは、「本当に軸がないならどれもが正解だから（職業選択などの際に）悩む必要は全くない。」とのことでした。

森岡さんは、父親から娘さんへ贈られましたが、私は、娘からこの本を貸してもらいました。そう遠くない第2の人生に向けての「軸」を探してみようと思っています。



校内書き初め大会

1・2年生は硬筆、3年生以上は毛筆を使って学年ごとに決められた課題に取り組みました。緊張感が漂う中、子どもたちは真剣な表情で筆を走らせ、一文字一文字丁寧に書きあげていました。静けさの中で集中して取り組み、年頭の行事に親しむことができました。



校内マラソン大会



1年生にとっては初めての、6年生にとっては小学校最後の校内マラソン大会が行われました。子どもたちはこの日のために業間マラソンに一生懸命取り組み、自己記録や順位を伸ばそうと、友達同士声掛け合いながら頑張ってきました。本番では、参加した全員が完走することができ、自分の目標に向かって日々努力する大切さや、互いに励まし合うことで目標意識を更に高められることを感じたと思います。コース沿道での声援、交通整理など、ご協力ありがとうございました。

